

ともにいのちかがやく世界へ

大悲

元本願寺派総長
題字：蓮清典師

(第60号)
2018. 5. 1

昌平寺
昌平寺門信徒会

〒359-0036 所沢市旭町22-8 電話 (04) 2994-8887



平成三十年度

昌平寺行事御案内

- 一、合同墓地追悼法要(第一墓苑)
勤行・法話 5月13日(日)
午前11時〜
- 二、門信徒総会
勤行・法話 6月3日(日)
午後2時
本願寺派布教使 赤川浄友師
総会 午後3時
- 三、本堂預骨室盂蘭盆会(第一本堂)
7月22日(日)
- 四、盂蘭盆会
勤行 7月29日(日)
午後2時
法話 午後3時
本願寺派布教使 宮本義宣師
- 五、武蔵野墓苑盂蘭盆会
8月5日(日)
- 六、秋季彼岸会
9月23日(祝・日)
- 七、開基住職小畑俊哲忌
11月2日(金)
- 八、報恩講
12月1日(土)
12月2日(日)
- 九、成道会の集い
12月7日(金)

新年挨拶

み仏の願に生きる 元旦会

昌平寺 住職 遠山久敬



如来所以興出世
唯説弥陀本願海

（釈迦如来がこの世にお生まれになった理由は、ただ阿弥陀仏の本願の救いを説くためである。） 『正信偈より』

門信徒の皆様 新年明けましておめでとうございます。

また、日頃は、昌平寺の行事等にご協力、ご参加いただきありがとうございます。

さて、冒頭の文は、朝夕の勤め時におなじみの、正信偈の

文です。親鸞聖人は、お釈迦様

は、ただ、阿弥陀仏の本願（第十八願）の教えを説き伝えるために、人間界にお生まれになられた。と、つまりお釈迦さまが説かれた四万八千ともいわれるお経（教え）の全ては、阿陀仏の本願（第十八願）を説くためと言いきつておられます。

その本願とは、「仏説無量寿経」に説かれる。「必ずあなたを仏（まことの幸せなもの）にします」「十方の衆生が仏にならなければ、自分も仏にならない」との願いと覚悟です。ならば、お釈迦様の言葉はすべて、本願に通づるものとなります。

よって、今年は、お釈迦様の言葉から、私たちができる具体的な方法を確認実践して、幸せな人に近づきましょう。

今回は、分かりやすく解説し

てあります仏教伝道協会の『ブツダがせんせい』から、引用いたします。

ダンマ・パダ（発句経）

『真理の言葉』

「良いことをして、悪いことをしない」

ブツダは、「悪いことをしないで、良いこと（みんなのためになること）をたくさんして、心をきれいにしておくことが、人を幸せにする」と、わたしたちにおしえています。子どもでもしてはいけないことを、ここにあげてみました。

「わるいこと」

- ・むやみに生きものをころすこと
- ・人のものをぬすむこと
- ・うそをつくこと
- ・つくり話をいふらすこと
- ・わるいことばをつかうこと
- ・もののおしみすること（人にものかさないこと）
- ・あれもこれもと、ほしがる

こと

- ・おこること
- ・人をうらむこと
- ・やくそくをやぶること

この「わるいこと」をしないように精進努力して、心をきれいにしておくことが、私とまわりの人を幸せにする」第一歩です。

ときどきよみかえして、みなさまもまもるようにしましょう。この一歩を踏み出すことが、皆様にとりまして毎日がかけがえのない、スペシャルデイとなります。事を念じて。年頭のご挨拶といたします。

それでは、これより阿弥陀様、親鸞さまからのご流杯（清酒）をいただき、新年の門出にしたいと存じます。……「乾杯！」



報恩講話

念仏の声さわやかに

武蔵野大学教授 山崎龍明



た位とされています。生に迷い死に迷って、不安と、おそれ、おのきの中で生きている私にたしかかな生き方が恵まれます。これが浄土真宗の救いといつてもいいと思います。

今年も報恩講のご縁をいただきました。今年我真宗のご利益について考えます。親鸞聖人は「眞實信心のひとは「現生に十種の利益」をうると説かれています。聖人の主著である『教行信証』の信心をあらわすところに示されています。アマダ如来から賜る信心が「ご利益」とはどういうことでしょうか。

病気が治つたり、お金が入つてくるといふようなものは本当のご利益ではありません。それは自己の欲望が満たされただけです。自己満足の世界です。欲望を満たすための宗教を親鸞聖人は「偽り」（いつわり）の宗教といわれます。「偽」（ぎ）とはよくできた字です。ニンベンに「為す」とあります。つまり人間の考えること、行うこと、という意味です。私たち人間のかんがえること、行為はすべて「自我」（エゴ）に基づいています。だから「いつわり」というのです。これに対して「眞」の

宗教とはお金やものを手に入れるのでなく、生き方そのものの充実をめざすものです。言ってみれば「幸福」を実現するためのものです。「利益」とはインドの言葉で「アルタ」と言います。その意味は「幸福」です。

私たちは生きていく限り「苦しみ」を経験しなければなりません。老いること、病むこと、死ぬこと、好きな人と別れること、いやな人も付き合つていなくてはならないこと、感情の乱れによつていつもイライラの連続。このようなつぼの中で私たちは生きています。苦しみは永遠になくなりません。しかし、まことの仏法にであうことによつて、人生の道理に気づかされると、苦しみとともに生きるしかないことが知らされます。すると、その苦しみが軽く、少なく、うすくなる。親鸞聖人は示されます。苦しみとともに生きる覚悟ができると先が見えます。苦しみはなくなりません。しかし、くるしみを超

えることはできません。苦しみを軽く少なく薄くするハタラクがアマダ如来の教えでした。そこにはよるこびがあります。報恩講の法要はこのことを確認する集いです。

金剛の真心を獲得すれば、横に五趣八難の道を超え、必ず現生に十種の益を獲得。なにか十とする。

- 一には冥衆護持の益、
- 二には至徳具足の益、
- 三には転悪成善の益、
- 四には諸仏護念の益、
- 五には諸仏称讃の益、
- 六には心光常護の益、
- 七には心多歡喜の益、
- 八には知恩報徳の益、
- 九には常行大悲の益、
- 十には入正定聚の益なり。

（教行信証信巻）

報恩講速夜法話

信心諍論

本願寺派布教使 武藤隆法



ようこそお参り下さいました。

ご絵伝二軸三図の「信心諍論」について少しお取り次ぎをさせていただきます。諍論とは「言い争い・意見の相違」のことです。

親鸞聖人が法然上人のご門弟で善信と名のついていた若き日の出来事です。法然上人のもとへ大勢のご門弟が集まったおりに善信が「法然上人の信心と善信の信心は同じである」と申したのです。

ご門弟のなかから、法然上人と善信とでは智慧や才覚がまっ

たくちがう、上人様に対して失礼で有ると、勢観坊・念仏坊・聖信坊の方々と意見の対立があったのです。この出来事は法然上人行状絵図の伝記絵巻にも描かれています。

宗教には信心は必要不可欠の要件です。信心は一般的に、自己が対象に対して信じることによって成り立ちます。自己の確信に力が入ります。

法然上人はご門弟の信心相違について「法然が信心も如来より賜る信心、善信の信心も如来より賜る信心、さればひとつである」信心が法然と同じでないならお浄土へ往生する事はできないと仰せられたのです。

信心について親鸞様は「信心とは本願力廻向の信心なり」(本典信巻)と説いています。南無

阿弥陀仏の六字名号がこの私に到り届き受領された相を私の側から「信心」と呼び、他力の信心とも申します。

親鸞様は、信心は「菩提のたね無上涅槃をさとりたね」(尊号真像銘文)であると説いています。この私が仏に成るたねが信心・南無阿弥陀仏であるとご指南されております。

お釋迦様は阿弥陀様の信心をいただく人を誉め讃えて、分陀利華(白蓮華)のように美しく人生を生きる人・また妙好人・勝友(しょうゆう)とも呼んで下さいます。

まさに、親鸞様はこの私に信心は阿弥陀様からのいただきもので自ら求めるものではなく不廻向であると、お浄土へ往生する道を教えしめて下さいました。明日の報恩講には、影向と云うてお浄土から親鸞様が法座におみえになり、私達とご一緒にお勤めをして下さるといわれています。

一人居ても喜びなば

二人と思え二人にして
喜ぶおりは三人なるぞ
その一人こそ親鸞なれ
(報恩講の歌)
明日は皆様方のお参りをおまちしております。

南無阿弥陀仏



御絵伝 第二軸第三図「信心諍論の図」

春季彼岸会

念仏が唯一の善業

駒澤大学名誉教授 田上太秀



ご先祖供養を欠かさないことが本当の信仰です。供養はご先祖を敬うだけでなく、ご先祖のご恩を忘れないことです。墓前ではご先祖の姿が走馬灯のように思い出され、生き様が浮かび上がってくるものです。自然と語り掛けてくるのではありませんか。

日頃から仏壇の前で読経している間にもご先祖の姿が見えてくると思います。だから炊き立てのご飯と熱いお茶を供えたり、旬の果物や珍しいお菓子をお供えたりして供養することが大切で

す。このような日頃の供養が遺族の勤めであり、これが諸仏が説かれる善業（善い行い）なのです。

小さい子供が仏壇にあるお供え物を見て、「どうしてお供えするの？おじいちゃんやおばあちゃんもなにも食べたり飲んだりした跡がないのに」と尋ねることがあります。教えてあげてください、「一冊の本を数十人が回し読みした後、その本の活字が消えてしまっているだろうか。本の内容は読んだ人の頭に残っているでしょう。それと同じで、食べたり飲んだりした跡はないが、ご先祖様は食べておられる」と。

先祖供養の時に諸仏の教えが説かれたお経を読みます。それはご先祖にその教えを伝えるこ

とでもあり、自らも「教えを守ります」と誓うことです。これが念仏です。お釈迦さまを、阿彌陀様を慕い、命を預けますと祈り、忘れないようにしますという誓いです。

善い行いを積み重ねると、それが自分の功德となります。功德とは恵みとか力とかの意味です。種をまくと大きくなつて実になります。くりかえし鍛える力をつけられます。善業は来世で自分の助けとなる、とお釈迦様は説かれました。ちょうど買ひ物のあとのポイントのようであり、貯金したお金のようであり、後で役に立ちます。

お釈迦様は善業と悪業は現世で作ったもので、その人は来世に、影が形に従うように、それを持つて行かなければならない、と説かれました。特に善業とはくりかえしますが、念仏です。

念仏には形がありません。しかしそれを日々行うことが大切です。身の振る舞いを気にせず、こころの善悪を詮索せず、ひた

すら先祖供養の時に念仏を称えることだと法然上人は説かれました。

また、親鸞聖人は阿彌陀仏のご恩を忘れず、それに報いるように自分の身も心も阿彌陀仏に投げ入れて念仏する。念仏しているのは阿彌陀仏なのか自分なのか、ただほればれと念仏が口からほとぼしる。これを積み重ねることが善業です。ご清聴ありがとうございます。



雪の昌平寺

門信徒のひろば

お経さま

坪内春雄

大信海を按ずれば

「凡そ大信海を按ずれば、
貴賤・縊素を簡ばず、男女、
老少を謂はず、造罪の多
少を問はず、修行の久近
を論ぜず、行に非ず、善
に非ず、頓に非ず、漸に
非ず、定に非ず、散に非ず、
正觀に非ず、邪觀に非ず、
有念に非ず、無念に非ず、
尋常に非ず、臨終に非ず、
一念に非ず、多念に非ず。
唯是れ不可思議・不可称・
不可説の信樂なり。喩へ
ば阿迦陀藥の能く一切の
毒を滅するが如し。如来
誓願の藥は能く智慧の毒
を滅するなり。」
(教行信証・信卷・大信嘆
徳)

「総じて、この他力の信心に

ついてうかがうと、身分の違い
や出家・在家の違い、また老若
男女の別によつてわけへだてが
あるのでもなく、犯した罪の多
い少ないや修行期間の長い短い
などが問われるのでもない。ま
た、自ら行う行でもなく、自ら
行う善でもない。速やかにさと
ろうとする教えでもなく、散善
でもない。正しい觀法でもなく、
よこしまな觀法でもない。相を
離れて理を念じるのでもない。
平生に限るのでもなく、臨終に
限るのでもない。称名を多念に
励むのでもなく、一念に限るの
でもない。これはただ、思いは
かることも、讀え尽くすことも、
説き尽くすこともできないすぐ
れた信樂である。たとえば、阿

伽陀藥がすべての毒を滅するよ
うに、如来の誓願は、自力のは
からいである智慧の毒も愚痴の
毒も滅するのである。」

(同現代語訳)

この「大信海を按ずれば」の
ことばに出遇つて心がふるえま
した。なんと無碍自在の心の世
界でありましょうか。

親鸞聖人が尊号・南無阿弥陀
仏の世界をこのように讃え仰い
でおられます。

末世の煩惱熾盛といわれる衆
生・私たちに恵んでくださる世
界であります。

元を尋ねれば、佛世尊が説か
れた法界・実相世界であります。

私たちが生命をゆるされたこ
の大宇宙を讀えて法界・真如界
といわれます。三世(過去・現
在・未来)十方(東・南・西・北・
四維・上・下)にいきわたつて
いる法の世界といわれます。

現在、天体・宇宙の観測や測
定の技量は格段に進化して、こ
の宇宙の広がり大ききは、視

界をはるかに超えて、無限であ
ることを人類が共通認識できる
ようになりました。

「法性真如」、「一如法界」、そ
してこれらの世界を私たちの心
に恵み獲せしめてくださるので
す。諸法無我的世界といわれま
す。元来ここには損とか得とか
はありません。美しい醜いも
ありません。三惡道(地獄・餓
鬼・畜生)の名前さえもない境
界であるとのことです。

本来、この地球上には、「貴賤・
身分のちがい」もなければ、「縊
素・出家在家のちがい」はあり
ませんでした。老若男女の別
によるわけへだてもなかつたはず
です。人間に進化するまでは犯
した罪の多い少ないなどはあり
ませんでした。ここにあげられ
ている全ての障りの苦しみは人
間・私たちが累々と作り、具え
蓄えてきた苦しみであります。
「智慧の毒」「愚痴の毒」はこ
の身この心にそなわっている貪
欲(むさぼり)・瞋恚(いかり)・
愚痴(おろか)のしわざである

と教えていただきます。

「一切の群生海、無始よりこのかた乃至今日今時に至るまで、穢悪汚染にして清浄の心なく、虚偽諂偽にして眞実の心なし」

(同信巻)

「すべての衆生は、はかり知れない昔から今日この時にいたるまで、煩惱に汚れて清らかな心がなく、いつわりへつらうばかりで、まことの心がない」

(同現代語訳)

と仰せであります。

この私を憐れんで、大慈大悲の本願を誓ってくださった親様がおわしますと聞かせていただき、不思議な強縁に引き入れてくださいました。

このような、すばらしい大信海という境界の真つ只中に、いま人間として生かされていることをあらためて思い知らされま

す。人間なるが故に、本来の眞如の大信海を侵し、壊し、逆らい、

自分自身を損とか得とかの愚痴の毒の小さな枠の中に閉じ込めてきているとは、知りませんでした。

この大宇宙・法界に生物が出て現し、長い永い時間を恵まれて、他の群れを離れて、ついに人類として進化しました。一番新参ものの人間が地球上を侵略支配して、横暴の限りを尽くすまでにいたりしました。進化を楽しむ絢爛を喜びながら、貪り合いは奪い合いとなり、遂には国と国の名のもとに殺し合いがまかり通る、恐ろしい人間世界となりました。

このような私たちの心を「五濁悪時悪世界」と見抜かれて大悲の本願を誓われ、南無阿弥陀仏となつて、私たちに施し与えてくださる時をいただきます。

末法濁世といわれる今日、不思議にも私たちは命を与えられました。今ここにこうして生かされて、遂に阿弥陀仏様の本願の光照を蒙る大利益をいただきます。

あらためて人間に生まれさせられた不思議、遇い難い法に遇わされている不思議をいただきます。「虚偽(うそ) 諂(へつらい) 偽(いつわり) にして眞実の心なし」の心だからこそ、「南無阿弥陀仏」と称えさせられ、大悲に摂め包まれて、一瞬の間でも眞如界の不思議をいただきます。

南無阿弥陀仏にこめられた不思議力であります。

宇宙の本源である眞如からもたらされるので至心と讃えられます。

この至心のはたらきが南無阿弥陀仏のみ名となつて、私たちの口業に出てくださるので大行(大きなはたらき)と申されます。親様の大行のみ手の中に今を生かされております。

現生で妄念煩惱のままに、眞如法界を拝ませてくださり、「往生安楽国」の心を恵んでくださいます。勿体ないことであります。ありがたいことであります。

合掌

今日の一言

西本願寺 大谷光淳門主

「日々の一瞬一瞬を、まずはありのままに受け止めて、そしてひたむきに精いっぱい生きていくこと」

(著書「ありのままに、ひたむきに」より)



なもあみだぶつ

報恩講及び成道会について

太田 文子

「大悲」の原稿依頼をいただき、昌平寺様と遠山ご住職とのご縁にも触れながら寄稿させていただきます。

昨年義母の十七回忌の法要をお願いした際、ご住職が私の母校の武蔵野女子大学（現武蔵野大学）に長年お勤めをされたことを伺いました。高校・大学を過ごした七年間、同じキャンパスのどこかで、遠山先生とすれ違っていたかも知れないと思うと不思議なご縁を感じます。

現在、築地本願寺合唱団『楽友会』の指揮者として、様々な法要・行事で、音楽礼拝・仏教讃歌のお勤めをさせていただいております。

昌平寺様でも行事毎に音楽法要が取り入れられていたり、法

要・儀式に重きを置かれお勤めされておられます。

報恩講は親鸞聖人のご遺徳を

偲ぶ、浄土真宗では一番大切な法要です。速夜では往生礼讃を勤行の後、ロビーに飾られた御絵伝を拝見しながら、遠山住職・花山勝弘師の御依抄拝読、本願寺派布教師武藤隆法師と同花山勝弘師のご法話がありました。翌日は、「宗祖讃迎作法」によりの報恩講法要が務められ、武蔵野大学名誉教授山崎龍明先生のご法話をお聴聞しました。

私は親鸞聖人のご和讃に、伊藤完夫先生が作曲された『清風宝樹』を献歌させていただきました。「宮商和して自然なり」という詞が出てまいります。

西洋音楽ではレとミのような音は同時に鳴らすと不協和音と呼ばれます。しかし浄土では調和すると書かれています。

今日、日々不協和音に感じるような事例が次々に起こります。が、みんな違つてみんな良い、と思えるような心の広さを持つるようになりたいものです。

報恩講の後は、先生方、坊守様、寺務所の皆様、門信徒の皆様が本堂に集まり、ヴォイストレーニングをしました。和やかな中にも、皆様真剣に取り組んで下さいました。肩の力を抜き、喉を開き、丹田に力を入れ、深い呼吸で声を出す。というのは全ての発声の基本だと思います。終了後、先生方が次々に質問に答われたのには驚きました。お話ししたことを即座に取り入れようとなさるお姿には頭が下がりました。

七日には成道会が行われました。お釈迦様が六年の苦行の末

に、お悟りをひらき仏となられた日です。

このように、年間を通して各法要・行事に参加していますと、自然に仏様の教えに触れる機会が増え、自分自身の問題と照らし合わせて人生を考える時間になつていくことに気付かされます。

これからも、昌平寺様、遠山ご住職や門信徒の皆様とのご縁を大切にして日々精進してまいります。

合掌



第23回昌平寺門信徒会定期総会開催のご案内

下記日程により平成30年度定期総会を開催いたしますので、多くの会員皆様のご出席をお待ち申し上げます。

【日 時】 平成30年6月3日(日)午後2時00分～

【場 所】 昌平寺本堂

【総会次第】

- 1 開会の辞
- 2 勤行・基調講演
講師 本願寺布教使 赤川 浄友 師
— 10分 休憩 —
- 3 総会
 - 1) 会長挨拶
 - 2) 議長選出
 - 3) 議事
 - ア) 平成29年度事業報告
 - イ) 平成29年度会計決算及び監査報告
 - ウ) 平成30年度事業計画(案)
 - エ) 平成30年度会計予算(案)
 - オ) 会長選任
 - 4) 議長解任
 - 5) その他
 - ア) 新旧会長挨拶
 - イ) 昌平寺住職挨拶
 - ウ) 恩徳讃唱和
- 4 閉会の辞

※ 会員の皆様には、総会出欠の通知(兼委任状)の返信用ハガキと会費振込用紙を大悲60号に同封いたしましたので、折り返し、出欠の返信と会費(1,500円)納入のお手続きを賜りますようお願い申し上げます。

徒れづれ

小畑坊守米寿のお祝い

昌平寺坊守小畑よし様が昨年十二月十四日、米寿を迎えられました。十二月四日に開催された恒例の門信徒会「忘年のつどい」の折、お祝いをさせて頂きました。門信徒会役員の小山鶴子さまの心温まるお祝辞に添え



て、記念品と花束をプレゼント致しました。

坊守様からは、「今後も昌平寺が良い流れのもとにあゆんでいけるよう遠山住職とともに努力していきたい」との心強いお言葉を頂きました。プレゼントも心から喜んで頂けたお気持ちも伝わり、とても嬉しいひとときでした。お寺に伺い寺務所の奥にお出でになる坊守様のお姿を拝見する時、何とも言えぬ安心感を味あわせて頂いています。

「小畑坊守お元気で」との念いの中、「忘年のつどい」の和

やかな時間が過ぎていきました。

「幸せ」って何？

今春、武蔵野大学を退任されたケネス田中教授（昌平寺には平成二十七年の秋季彼岸会でご法話をいただきました）の最終講義が昨年十二月にありました。

テーマは「世界の幸せを力づくにしようー私の仏教的視点」でした。世界の幸福度調査では各先進国がすべて上位を占めています。日本は四十三点でインドネシア・マレーシア・ペル一等の途上国の下にある、というお話にはその低さに驚かされました。

「もの」を求め、「こころ」がないのでしょうか。物を主観的ではなく客観的にしか見られないのでしょうか。先生は「縦の軸を育てる事」と説かれました。それこそが仏教であると。縦の軸を育てるには、自分の本当の姿に目覚めなければいけないー自分の主体性と凡夫性に目覚める事ー

そしてこのことが親鸞聖人に象徴されている、と教えられました。

また、それ以後は、昌平寺境内で朝な夕なご挨拶する親鸞さま（旅立の像）のお顔をまた違った気持ちで見上げている自分に気付かされました。自分自身を知り短所や欠点が良くわかれば、改善する余裕が与えられる。余裕ができれば人に対して優しくなり、人のことを肯定することができるようになる。

心の持ち方がまさに「幸せ」になるということでしょうか。「言葉だけ美しく実行の伴わないのは、色あつて香りのない花のようなものである」という心していかなければならない言葉との出会いもありました。元旦の遠山住職のご法話『み仏の願に生きる』こそ「幸せ」。南無阿彌陀仏のもと、小さなことにも「幸せ」を感じる毎日大切に積み重ねていこう、と改めて強く感じさせられました。

楽しい お知らせ

春のゆつくり

ウォーキング

智光山公園内散策！

智光山公園は、総敷地面積53・8ヘクタールという広さを持った大公園です。新緑に富む深い雑木林を散策しながらバラ園や薬草園などがある都市緑化植物園を目指します。昼食の後、近くにあるサイボクハムに向かい、買い物などをお楽しみ頂きます。

皆様、お誘い合わせの上奮ってご参加頂きますようお願いいたします。

期 日 平成30年5月12日(土)

小雨決行

集合時間 午前9時00分

集合場所 西武鉄道狭山市駅コ

ンコース

参加費 200円(スポーツ傷

害保険)

持ち物 帽子・雨具・弁当・飲

み物・おやつ・敷物・保険証

コース 狭山市駅西口↓智光山

公園行きバス利用(約20分)

↓智光山公園↓園内散策・バ

ラ園付近で昼食休憩↓サイボ

クハム(解散)

全行程 約4km

歩程 約1時間30分

申込締切

平成30年5月6日(日)

申込先及び緊急連絡先

浅上・電話 04-2942-2009

携帯 080-1006-7263

秋の一泊研修旅行日程

今年度の一泊研修旅行日程は

平成三十年十月九日(火)

十日(水)

と決まりました。行先については、これから吟味します。多数ご参加下さるよう、行事予定に入れていただければ幸いです。

ご案内

昌平寺開基住職

小畑俊哲忌法要

開基住職小畑俊哲忌法要を昌平寺本堂において謹んで厳修いたします。

平成三十年十一月二日(金)

一、午後二時より勤行

一、続いてお話

皆様方共々にご参拝いただきませう、お念じ申し上げます。

尚、本法要、ご参拝に際して、

ご香典、献花、ご供物等一切固くご辞退申し上げます。

合掌

昌平寺



定例法話・茶話会

第三火曜日

十時～十二時

講師は昌平寺僧侶、他講師

注)一月・七月・八月・十二月

は休会と致します

茶話会は、午後一時から和

室で行います

写経の会

一月・七月・八月・十二月

(法話会の休会月)

午前十時より

講師 香月櫻石

場所 昌平寺一階和室

テーブル席

正信偈・讚仏偈・御文章

昌平寺俳句

平成三十年三月二十七日

深見けん二選

旅先の三条河原初燕

浅上 勝敏

過去帳を繻く雪のお中日

浅上 寿子

芽起しと思ふ雨音朝まだき

新井 雪江

つばくろや多摩湖狭山湖水ゆたか

池田新八郎

それぞれの門出のひとつ木の芽風

緒方 初子

長廊下角々曲り下萌ゆる

香月えいじ

春一番今日の約束延期して

木谷 英子

永き日を使ひ切ったりそれなりに

久保田よしみ

閻王の舌に埃や梅の花

小泉 洋一

指浸す水にも影や水温む

芝 高子

妻若き写真に彼岸巡り来ぬ

志摩 角美

掌を置いて仰ぐ芽吹きのお神木

鈴木すぐる

指先に匂ひ立たせる山椒の芽

鈴木 征子

満開の桜並木を鼓笛隊

田井地智子

高原のコーヒータム燕来る

高橋 敏子

削らるる山の麓や木の芽張る

永井 潮

城門の古き傷痕つばくらめ

永岡美砂子

親鸞の笠に雪積む彼岸かな

縄田をさむ

花曇部屋に墨の香たち込めて

福田 敏子

浅間山遠むらさきに木の芽風

馬越やす子

雪も降り一と日籠りし彼岸かな

深見 けん二

昌平寺俳句会御案内

毎月第四火曜日

締切 十時

場所 本館日本間

句数 七句

どなたでもご参加いただけます。

まずお寺へ

皆様方は、御家庭の御仏壇に朝に夕にお手を合わせていらっしやいますね。

本堂は家庭の仏壇の延長線にあるものです。俱に心のよりどころとしてお気軽にお参りください。昌平寺は皆様のお寺です。お葬儀の相談、お墓、仏塔の購入、お遺骨の一時預かり、ご法要の相談、ご仏壇の購入、ご本尊入仏慶讃法要等々仏事の事なら何なりと迷わずにご相談ください。また、昌平寺では、年一度皆様方にお送りしております年間行事表、大悲の冒頭にも掲載してありますように年間を通して十回の仏行事があります。ご家族お揃いでお参りください。本願寺でも有名な先生方をお招きしての御講演、定例法話会もありますので、ご聴聞ください。更に月例門信徒会によるお楽しみ茶話会、昌平寺春祭り、年一回ですが門信徒会の研修親睦

旅行等の行事もあります。

ご参加ください。お持ちしております。

最近、テレビ、新聞、週刊誌等で話題になっております葬儀において、納得のいかない請求が多々発生し、トラブルとなることしばしば見受けられるようです。

葬儀業者の当初の見積り金額、ネット等で調べた金額と大幅に請求金額が違うこともあると聞いております。

やり直しのきかない葬儀ですから各自が細かい部分まで十分にご確認され納得されたうえご契約いただければと存じます。

お葬儀の契約についての苦情の増加は、葬祭業の営業に許認可制がなく新規参入がしやすいという背景があるほか、突然訪れる身内の不幸に動転して、業者のペースで契約してしまうことが多いようです。

こうしたことから、ご葬儀は出来るだけご本人が生前中にご家族と話し合いの上、お葬儀の予

算、ご参列者予定人数・お知らせする方々の住所、氏名、ご家庭の宗派、遺影のお写真、斎場等についてご家族と相談してあらかじめきめておくことご安心いただけるかと存じます。

お葬儀については、まず昌平寺にご相談ください。信頼できる葬祭業者をご紹介させていただきます。

当昌平寺では葬祭斎場二ヶ所、法事本堂二ヶ所を備え、ロビー、駐車場も整備してご来寺のお客様にご不便のないよう努めております。

預骨室のご利用、墓地については、墓苑をお持ちでない方に、当寺では仏塔（永代供養付き合同墓所）、また残りは少なかりましたが、墓地のご用意もありませんし、その間のお預かりも出来ますのでご利用ください。

なお、当昌平寺では、従来どおり門信徒の方々にご寄進をお願いすることは一切ございませんのでご安心ください。

合掌

編集後記

例年がない寒さと冷たさの冬、そして花粉の多さに悩まされた春が過ぎ、漸く初夏が訪れました。お健やかな日々をお過ごしのことと思います。

平昌冬季オリンピック・パラリンピックではたくさんの方々が全国に広がりました。

春のお彼岸会は季節外れの雪の日となりましたが、多くの方とご縁をいただきました。

本堂で音楽礼拝のお勤めが終わった後の春まつりは境内に染しげな声飛び交い、抽選会・各売店と笑顔が溢れました。和室でのお茶席も、例年通り皆様方に落ち着いたひとときを過ごして頂きました。

大悲六十号をお届け致します。御寄稿いただきました先生方・門信徒の方に厚くお礼を申し上げます。

六月三日（日）は門信徒会総会が開催されます。ご参加を心よりお待ちしております。

憲子

Topics



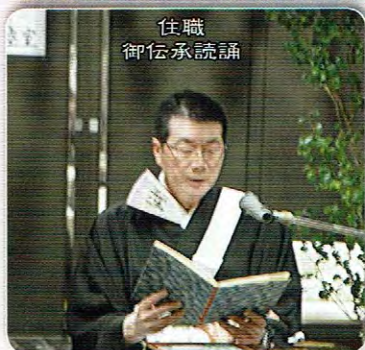
報恩講の折の築地本願寺の前庭の様子



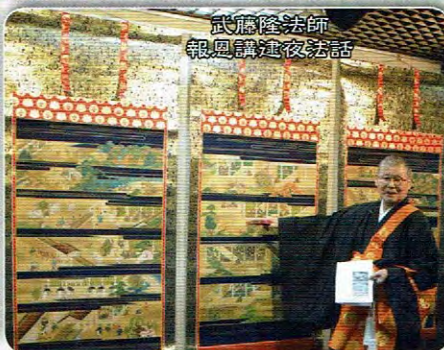
築地本願寺
報恩講



昌平寺
報恩講お建夜法要



住職
御伝承読誦



武蔵隆法師
報恩講建夜法話



山崎龍明師
報恩講法話



忘年のつどい



忘年のつどい
声を合わせて



元旦会 流杯の儀
久万役員



元旦会 流杯の儀 乾杯